

誌上行学講習会

高佐日焯上人

「二、経済の安定」

我々はカスミを食って生きていくわけではあり
 ません。生活はとにかく何とかして金がかか
 るというのが実状であり、右を向いても左を
 見てもお金なしに生きることは出来ないのであ
 ります。乞食をすれば良いというかも知れませ
 せん。人間である限りプライドがそれを許しま
 せん。人間としての名誉欲があります。破れザ
 ルを背にしよってボロをまとってゴミ箱をあ
 ざるなどは、よほどのことがない限り出
 来るものではない。水以下生活は誰
 ものぞんでおられません。為には経済力を
 いなければなりません。といはば難かし
 にするかということも考えてみれば、い
 のです。三井三菱の大財閥、小さいながら
 家を持つた状態、電化器具から家用車を、
 れも中古から新車に、別荘を建てよう、
 をやろう等、果てしなく欲はつきないもので
 ります。

とにかく我々人間は経済的に危険を感じない
 状態までにはいき出しておかねばなりません。
 よっと油断すると生活があぶないとい
 な、不安定な状態では全く幸福はつか
 でありませぬ。

「三、精神の修養」

心の修養のことです。肉体が育つよ
 うに心も育つものであります。殊に心よ
 うに人は支配されてはならないのであ
 ります。おろそかに考えてはならないのであ
 ります。俗に精神年齢が、心の方未だ若
 部古くは精神年齢が若いのだと、
 いうのは精神年齢が若いのだと、
 これは言葉を変えていえば、少年の
 り遠く去つていないといえ、少年の
 ないこと、腹を立たない、くんだり
 人のせんに頭痛に病んでみたり、
 ン、トルマンが井戸端会議をやら
 り、心すべが精神年齢が足りない、
 と心の成長がうらはらで、ア
 るという結果であります。決して
 精神IIをおろそかに考へてはな
 りませぬ。

「この三つはどの一つを欠いても人間を安ら
 かしめない。目的は、人間の精神修養に
 本講習会の目的は、人間の精神修養に
 は申すまでもないが、人間の精神修養に
 ては、安定のものであるから、健康の
 済の安定にも精神力の如何が重大な
 とつて、安定にも精神力の如何が重大な
 次号へ続く」